第 699 回
日本小児科学会東京都地方会講話会
プログラム

日　　時：　2024年7月20日（土）午後2時00分

開催会場：　アットビジネスセンター八重洲 501 号室

＊2024 年度より会場開催のみとなります。

＊講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備　考
1,000 円	専門医共通講習（医療福祉制度）1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	＊単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）

【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8　八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会　長：水野　克己（昭和大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和大学医学部小児科　担当：阿部　祥英

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：https://jpeds-tokyo.com/

第 699 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

（1 題 6 分、追加討論 3 分以内厳守のこと）
≪プログラム係　日本大学小児科　岡橋　彩≫

一般演題（1）14：00 － 14：40　座長　大橋　祥子（東京都立大塚病院新生児科）

1）母乳パック低温殺菌装置milmo®により経母乳サイトメガロウイルス感染を予防できた超早産児の 1 例

○白井　まどか、寺田　知正、古川　和奈、江畑　晶夫、長谷部　義幸、宮沢　篤生、水野　克己
（昭和大学小児科）

生後 2 週の新生児。在胎 24 週 5 日、761g で出生した。母体のサイトメガロウイルス（CMV）IgM、IgG が陽性で、児の尿中 CMV-DNA は陰性だった。母乳中 CMV-DNA コピー数を測定し、修正 32 週まで母乳パック低温殺菌装置 milmo® を用い、62.5℃、30 分で処理した母乳を与えた。低温殺菌は CMV の感染性をも消失させ、経母乳 CMV 感染症の予防や超早産児の母乳栄養を行う上で有用であった。

2）播種性非結核性抗酸菌感染症をきたした CHARGE 症候群の 1 例

○比留間　百合子 [1)]、折本　竜太 [2)]、高澤　啓 [2)]、鹿島田　健一 [2)]
（[1)] 東京医科歯科大学病院　総合教育研修センター、[2)] 同　小児科）

3 歳女児。CHARGE 症候群で通院し、ST 合剤で反復する腎盂腎炎を予防していた。発熱、けいれん重積を契機に急性巣状細菌性腎炎が判明し、セフェピムとバンコマイシンにより 3 日目に解熱したが、7 日目に再発熱、肝酵素値上昇を認め、高熱が持続した。血液・喀痰・便培養で *Mycobacterium abscessus* が検出され、播種性非結核性抗酸菌感染症としてイミペネム / シラスタチンとアジスロマイシンで治療した。

3）遷延する低血糖の原因が先天性門脈循環短絡症であった 1 例

○田中　寛顕 [1)]、武藤　大和 [1)]、鈴木　絵美子 [1)]、飯坂　建太 [1)]、室田　直紀 [1)]、上野　梨子 [1)]、山崎　晋 [1)]、岩崎　友弘 [1)]、寒竹　正人 [1)]、深田　彩加 [2)]、矢崎　悠太 [2)]、田中　奈々 [2)]、浦尾　正彦 [2)]
（[1)] 順天堂大学医学部附属練馬病院　新生児科、[2)] 同　小児外科）

日齢 56 乳児。多発形成異常（食道閉鎖症、右耳介低形成、蝶形椎、右側心、気管軟化症）を伴う正期産の女児で、日齢 8 の食道閉鎖根治術、経腸栄養開始後から原因不明の自然回復する低血糖が遷延した。新生児マススクリーニング再検査でガラクトース血症が判明し、門脈造影 CT 検査で先天性門脈体循環短絡症（CPSS）が同定され CPSS による低血糖と診断した。多発形成異常を合併する低血糖の鑑別に CPSS は重要である。

4）意識障害を契機に診断した食物蛋白誘発胃腸症の 1 例

○稲本　瑞希、堤　範音、田仲　樹、村上　美佐子、堀　佳那江、鶴井　萌子、長谷川　里奈、渡辺　駿、高橋　諒、西亦　繁雄、柏木　保代、山中　岳
（東京医科大学病院小児科・思春期科）

2 か月女児。完全母乳栄養で 1 週間以上続く嘔吐、血便があり 3 週間で 17% の体重減少をきたした。来院時、意識障害の他、急性腎障害、代謝性アシドーシス、高乳酸血症と循環不全を呈していた。便中好酸球陽性、ALST でのラクトフェリン（LF）陽性および LF 除去試験で嘔吐の改善を認め、食物蛋白誘発胃腸症と診断した。母乳は完全除去し、アミノ酸調整乳とした。食物蛋白誘発胃腸症では高度な脱水から意識障害をきたしうる。

一般演題（2）14：40 － 15：20　座長　小川　えりか（東京都立広尾病院小児科）

５）脊柱側弯症による拘束性換気障害に睡眠関連低換気障害を合併していた１例

○小浦方　祐介[1)]、小岩　征史[1)]、玉井　直敬[1)]、野崎　翔太郎[1)]、西　恵美里[1)]、冨田　健太朗[1)]、渡辺　航太[2)]、鳴海　覚志[1)]

（[1)] 慶應義塾大学医学部　小児科学教室、[2)] 同　整形外科学教室）

14 歳女子。脊柱側弯症に対する手術のため整形外科に入院した。8 歳から側弯症が悪化、12 歳から身長・体重の伸びが鈍化、13 歳から労作時の息切れを認めていた。呼吸機能検査で拘束性換気障害あり、特に入眠中の低換気が著しく術後も改善しなかった。ポリソムノグラフィーにて睡眠時低換気障害が判明し、夜間の非侵襲的陽圧換気を導入した。外科系患者であっても小児科医が積極的に関わることで正確な診断に繋がる場合がある。

６）失神を契機に左冠動脈開口部狭窄の診断に至った１例

○松岡　峻也[1)]、赤塚　祐介[1)]、佐藤　浩之[1)]、佐藤　恵也[1)]、加護　祐久[1)]、秋谷　梓[1)]、山﨑　真友美[1)]、田中　登[1)]、福永　英生[1)]、中西　啓介[2)]、東海林　宏道[1)]

（[1)] 順天堂大学　小児科、[2)] 同　心臓血管外科）

7 歳女児。就学後から運動時の胸痛・失神があり前医受診。トレッドミル負荷試験で胸痛と全胸部誘導心電図上の ST 低下を認め当院へ紹介された。造影 CT 検査､冠動脈造影検査で左冠動脈主幹部の狭窄を認め、左冠動脈開口部狭窄と診断し、開口部形成術を施行した。本疾患はまれであるが、突然死の原因になる一方で、安静時心電図は異常を呈さない場合がある。病歴で心原性神が疑われる際は、運動負荷心電図が診断上重要である。

７）鼠径部の疼痛と膨隆を呈した鼠径管内の精巣捻転の２例

○眞鍋　大希[1)]､佐々木　隆司[2)]､森脇　太郎[2)]､富田　慶一[2)]､大西　志麻[2)]､内田　佳子[2)]､多賀谷　貴史[2)]、天笠　俊介[2)]、植松　悟子[2)]、利根川　尚也[1)]、石黒　精[1)]、宮坂　実木子[3)]、長谷川　雄一[4)]

（[1)] 国立成育医療研究センター　教育研修センター、[2)] 同　救急診療部、[3)] 同　放射線診療部、[4)] 同　泌尿器科）

症例１は９歳男児。左鼠径部の疼痛と膨隆で受診した。症例２は９歳男児。既往歴に移動性精巣があった。右鼠径部の疼痛と膨隆で受診した。いずれも超音波検査により鼠径管内に、血流が途絶した精巣を認め、緊急手術を行い、精巣捻転と診断した。鼠径部の疼痛や膨隆を認めた際、鼠径管内の精巣捻転は重要な鑑別診断であり、超音波検査による精査が有用と考える。

８）診断に複数回の生検を要した皮膚浸潤を伴う頸部原発 Hodgkin リンパ腫

○岩田　啓司[1)]、田村　豪良[1)]、伊東　正剛[1)]、中原　衣里菜[1)]、西巻　はるな[2)]、青木　亮二[3)]、金澤　剛二[1)]、下澤　克宜[1)]、森岡　一朗[1)]

（[1)] 日本大学小児科、[2)] 日本大学医学部附属板橋病院　病理部、[3)] 同　放射線診断科）

14 歳女子。半年前から増大する左頸部腫瘤を認め皮膚浸潤も伴った。頸部腫瘤生検を複数回施行したが肉芽組織と膿瘍で診断に難渋した。追加の CT ガイド下胸腺生検にて CD30/PAX5 陽性の大型異型細胞を認め、Reed-Sternberg 細胞は認めなかったが､血清 TARC 高値も一助として古典的 Hodgkin リンパ腫と診断した。現在、Brentuximab-vedotin を含む多剤併用化学療法で加療中である。

＊　＊　休　　憩　　15：20 － 15：30　＊　＊

感染症だより　15：30 － 15：45　（講演：15 分）

講師　森野　紗衣子（国立感染症研究所感染症疫学センター）

共催セミナー　15：45 － 16：25　（講演：40 分）

「一般小児医療の中でこそみる、神経発達症」

座長　森岡　一朗（日本大学医学部小児科学系小児科学分野）
講師　黒木　春郎（医療法人社団嗣業の会　こどもとおとなのクリニック　パウルーム）

神経発達症は一般小児医療のなかでこそ重要と考える。その背景には増大するニーズ、それにこたえきれない供給側の問題がある。小児医療の中で神経発達症を扱うには、保険点数の面からも、様々な体制の面からも未整備である。また、一般小児科医が何を学び、何をなすべきか、また各専門領域と一般小児との関係をどのように考えるかなど、これからの課題も多い。こうした点に関して、いくつか問題提起、話題提供をしてみたい。

共催：ノーベルファーマ株式会社

＊　＊　休　憩　16：25 － 16：35　＊　＊

総会および名誉会員授与式　16：35 － 16：45

令和５年度名誉会員　**五十嵐　隆　先生**

教育講演　16：45 － 17：50　（講演：60 分 + 質疑応答：5 分）

専門医共通講習（医療福祉制度）１単位

「成人移行支援の新しい考え方と新しい取り組み」

座長　幡谷　浩史（東京都立小児総合医療センター　総合診療科）
講師　窪田　満（国立成育医療研究センター　総合診療部）

2014 年の日本小児科学会の移行期医療に関する提言以降、患者への自律・自立支援の重要性が明らかになり、さらに「医療」だけではない成人移行支援という視点の中で、小児科医の役割が見直された。それを受け、2023 年 1 月、日本小児科学会は新しい提言を公表した。また、新しい取り組みとして、筆者は都道府県の移行期医療支援センターの充実に協力しており、さらに、厚労科研で成人移行支援アプリを開発し、パイロットでの検討を始めている。

◆　2024 年度講話会及び年間行事予定　◆

■　講話会予定

講話会	日　程	会　場	備　考
第 699 回	2024 年 7 月 20 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通（会場開催のみ）	2024 年度総会
第 700 回	2024 年 9 月 14 日（土）		
第 701 回	2024 年 10 月 12 日（土）		
第 702 回	2024 年 12 月 14 日（土）		
第 703 回	2025 年 1 月 11 日（土）		
第 704 回	2025 年 2 月 8 日（土）		第 2 回幹事会
第 705 回	2025 年 3 月 8 日（土）		

＊4，5，8，11 月は休会

■　小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support：JPLS）を年間 4 回開催します。
取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位　iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会　場	申込開始時期
2024 年 12 月 7 日（土）	日本大学	2024 年 8 月上旬開始予定
2024 年 12 月 8 日（日）	日本大学	2024 年 8 月上旬開始予定
2025 年 2 月 1 日（土）	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定
2025 年 2 月 2 日（日）	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定

申し込み先：日本小児科学会 HP
https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■　第 49 回東日本小児科学会のご案内

会　　長：浜松医科大学　宮入烈先生
日　　程：令和 6 年 11 月 23 日（土・祝）予定
会　　場：えんてつホール（オンデマンド配信あり）
U　R　L：https://eastjp49.jp/

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。
【東京都地方会 HP】https://jpeds-tokyo.com/

◆　会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ　◆

【2024 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となります。
年会費納入のお知らせを 2024 年 4 月 1 日にメールおよびホームページにてご案内しております。
3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
＊会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。
学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

◆　関連学会の講演情報　◆

第 126 回　東京小児科医会学術講演会のご案内

開　催　方　法：オンデマンド
オンデマンド配信期間：令和 6 年 7 月 20 日（土）～ 8 月 4 日（日）
視聴申し込み期間：令和 6 年 6 月 6 日（木）～ 8 月 1 日（木）
詳　　細：東京小児科医会ホームページ　https://tokyo-pediatrics.org/
開催に関する問い合わせ先：編集室なるにあ
E-mail tpa@narunia.co.jp

第 50 回：東京小児科医会セミナー

開 催 方 法：Web ライブ開催
開 催 日 程：令和 6 年 7 月 21 日（日）14：00 開始
視聴申込締切：令和 6 年 7 月 21 日（日）13：00 まで
詳　　細：東京小児科医会ホームページ　https://tokyo-pediatrics.org/
開催に関する問い合わせ先：田辺三菱製薬株式会社
E-mail：nagawa.sara@ma.mt-pharma.co.jp

【主幹校（会長校）】昭和大学医学部小児科
【運営事務局】日本大学医学部小児科
【主幹校／運営事務局　共通アドレス】
✉　jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】
https://jpeds-tokyo.com/